



黒部峡谷 奥鐘橋

全司協だより (第1号)

令和3年12月24日発行

1. 会長あいさつ

就任5カ月目の所感

会長 石山 彰 雄

会長就任から5か月目に当り、会員の皆様に大変御協力頂いていることを感謝申し上げます。

お願いしています下記三委員会の活動につきましても、委員各位の精力的な行動により活発化しているものと存じます。

1つ目は、公嘱司法書士協会制度研究委員会で、先日、徳島県協会が会費支払い不能の理由により脱会されました。全司協が各公嘱協会にとって必要な存在であり続ける必要があります。そのための委員会だと考えますので、是非、尽力願います。

2つ目は、入札制度研究委員会です。公共事業の遂行のためには避けて通れないものですが、公益法人としての立場から建設事業のような一般競争入札とは異なるシステムとして構築できれば幸いと考えています。

3つ目は、長期末相続登記解消作業検証委員会ですが、現在実行中のこの作業の検証は、今後の公嘱協会の将来を占う重要な委員会だと考えます。

特に受託団なる組織にて、この作業を実行することの有用性につき、是非、御検討頂きたいと考えます。

この全司協だよりの復活・継続と共に、全司協が各公嘱協会にとって必要な中央からの情報、中央との連携、すなわち日司連、法務省、国土交通省、全公連との情報交換をしっかりと行ない、発信をしてゆきたいと考えますので御期待下さい。

2. 第2回合同委員会までの報告

【1】公嘱司法書士協会制度研究委員会 (委員長 後藤 基)

○第1回委員会は下記の要領にて開催した。

令和3年9月15日15時から17時まで

日司連ホールにてハイブリッド (対面&ZOOM) 会議

出席者、敬省略

後藤 基 (東京)、堀田泰司 (愛知)、安崎義清 (兵庫)、安田 捷 (兵庫)、島田雄三 (兵庫)、中村泰三 (福岡)

議題

1 諮問内容

- (1) 現在の全司協への加入協会の現状とその考察。
- (2) 公嘱協会の解散単位会の解散理由とその対応及び公嘱協会の必要性に関する考察。
- (3) 司法書士制度上における公嘱協会の位置づけとその有用性に関する考察。
- (4) 全司協としてなすべき事及び日司連に対する要望事項などの検討。

2 日程等

- (1) 中間報告 令和4年3月
- (2) 最終報告 令和4年12月

3. 上記諮問に基づき今後のスケジュール及び諮問についての打合せ

○第2回委員会は下記の要領にて開催

令和3年10月20日15時から16時30分まで (ZOOM) 会議

出席者は、第1回と同じ

議題

- (1) の加入協会の現状とその考察について
 - 各協会より現状報告
 - 各委員7～8分
 - 東京→愛知→兵庫→福岡の順番で報告
 - 具体的に、会務の運営と社員の動向
 - その工夫と問題点及び持続性

○第3回委員会は下記の要領にて開催

令和3年11月19日15時から16時30分まで (ZOOM) 会議

出席者は、第1回と同じ

議題

- (1) 諮問事項の(3)にある司法書士制度上における公嘱協会の位置づけとその有用性
 - 各協会より現状報告
 - 各委員 7～8分
 - 東京→愛知→兵庫→福岡の順番で報告
 - 具体的に、公益事業の取り組みと広報活動について

○第4回委員会は下記の要領にて開催

令和3年12月15日15時から16時30分までZOOM会議

出席者は、第1回と同じ

議題

- (1) 諮問事項の(2)にある「公嘱協会の必要性」について深堀を試みたい
 - 各委員 5分程度
 - 東京→愛知→兵庫→福岡の順番で発言

以上、当委員会にあた得られた諮問事項は、大変緊急で重要でしかも困難な問題と考え中間報告及び最終報告に向かって今後の全司協の役立になればと頑張りたいと思っています。

【2】入札制度研究委員会（委員長 岡野 直史）・・・・・・・・・・・・・・・・

○第1回委員会は下記の要領にて開催した。

令和3年9月15日15時から17時まで

日司連ホールにてハイブリット(対面&ZOOM) 会議

出席者、敬称略

岡野直史（東京）藤井啓一（神奈川）佐瀬比幸子（埼玉）子浦章（富山）三浦剛（宮城）

千須和行（山梨）

議題

- 1 各委員の所属する協会の現在までの入札状況について報告
- 2 司法書士法人との競合状況について報告
- 3 適切な入札となるための方策の検討

○第2回委員会は下記の要領にて開催した。

令和3年11月19日15時から17時まで

黒部・宇奈月温泉宇奈月グランドホテルにてハイブリット(対面&ZOOM) 会議

出席者、敬称略

岡野直史（東京）、藤井啓一（神奈川）佐瀬比幸子（埼玉）子浦章（富山）三浦剛（宮城）、

市川政秀（山梨）

議題

- 1 入札方式の検討
 - 低価格競争、ダンピング、最低賃金割れ
 - 受託業務の成果品質低下
 - 登記の専門家としての評価
 - 最低入札価格を設定し、それを下回る価格には落札させない
 - 入札に地域要件を入れる
 - 入札に遠隔地の団体が落札して、適切な業務処理ができるか疑問
 - 企画競争入札
 - 総合評価落札方式
- 2 官公署への働きかけ方法の検討
 - 我々が如何に入札方式を要望しても、決めるのは発注者側の官公署
 - 現状は価格が安い方に流れる
 - ハードルが高いが担当官公署に積極的にアピール
- 3 第3回委員会に向けて
 - 各委員は入札方式をさらに研究し、よりよき提言ができるよう検討する

【3】長期未相続登記解消作業検証委員会（委員長 山田 猛司）・・・・・・・・

○第1回委員会は下記の要領にて開催した。

令和3年9月15日15時から17時まで

日司連ホールにてハイブリット(対面&ZOOM) 会議

出席者、敬称略

山田猛司（東京）、石川幸太（東京）、君野大進（千葉）、坪井一廣（岡山）、内船正俊（長野）

委員会が組織され、初めての会議なので、各自自己紹介をし、その後議題に入った。

議題

- 1 委員会の今後の活動について
- 2 各協会の所有者不明特措法第40条の調査作業の入札状況についての報告検討
- 3 全司協のバックアップ体制について

○第2回委員会は下記の要領にて開催した。

令和3年11月19日15時から17時まで

黒部・宇奈月温泉宇奈月グランドホテルにてハイブリット(対面&ZOOM) 会議

出席者、敬称略

山田猛司(東京)、石川幸太(東京)、君野大進(千葉)、坪井一廣(岡山)、内船正俊(長野)

- 1 各協会における相続人調査の問題点に関する意見交換
契約の内に調査が終わらない場合の対処について
各協会における入札時期の違いについて
郵送費の扱いについて
処理体制における各協会の違いについて
今者アンケートの実施について
法務局からの通知を受けた相続人への対応について
- 2 法務省の令和3年度および令和4年度の予算要望額の変化および今後の相続人調査に関する動向を予測及び公嘱協会の対応方法について
相続人調査業務は今後どの程度継続するか
予算規模からすると縮小しており、法務局内部での処理体制に移行するか
- 3 全司協リーフレットの改訂についての意見交換

リーフレットについては公嘱協会が長期相続未了土地の相続人調査に対して積極的に関与していることをアピールすべきではあるが、あまりページ数をとる必要はないと思われる。

なお、民法及び不動産登記法の改正がなされたこともあり、その関係で公嘱協会はどのように対応できるかといった観点で検討も必要なのではないか。例えば外国居住者の所有不動産に対する日本における連絡先として公嘱協会が登記されることとなれば、法人として長期にわたり海外居住者の連絡先となり得るし、公嘱協会の広報にもつながるのではないかとのお話も出た。

3. アフター合同委員会



第2回合同委員会は富山県宇奈月温泉で開催しました。合同会合の翌日にトロッコ鉄道でのんびり1時間半揺られ、晩秋の黒部峡谷を散策したその道中をお伝えします。

トロッコ電車は黒部川が流れる深いV字峡谷に沿って20km程を走ります。この電車、単なる観光電車ではありません。黒部川には、有名な黒部ダム(くろよんだむ)が上流にあります。まだまだトロッコ電車はそこまでは繋がっていないので、その手前の宇奈月ダム、出し平ダム、小屋平ダムや6か所程の発電所の管理のために欠かせない交通手段となっています。

観光客に交じって働くダム関係者のおもてなし精神はとても素晴らしく、作業の合間にダムの説明を熱心にして下さったり、ダム工事現場の作業員もトロッコ電車に向かって手を振ってくれます。その温かさは、日本人だけでなく外国人観光客もとりにしているんだと実感できました。

豪雪地帯のため、冬季はトロッコ電車はお休みとなります。雪崩の多発地帯は、冬季間、線路を外し、トンネル入口も雪が入らないよう扉で閉めます。こうなるとダム関係者の交通手段はトロッコ電車脇にある人ひとりやっとな歩ける細いトンネルとなります。

このように大変な労力を費やして関西に電力を送っているわけですが、この疲れた体をほぐしてくれるのが、宇奈月温泉です。

私達は、この温泉水を引いた木管撤去を権利濫用を用いて阻止した判決の事件碑の前で、今回の合同会合を記念して撮影しました。



上記は、委員会後の2次会の模様です。

石山会長が地元の「ホタルイカの黒作り」や地元酒を持参され、参加者のお歯黒の披露会となりました。通常のイカの塩辛よりもホタルイカの方が甘味(旨味)が強く感じられます。日本酒にも赤ワインにもよく合いました。会合後のほっとした瞬間です。

4. 事務局から

いつもお世話になっております。

全司協事務局の本田です。

「全司協だより」を再開するにあたり、事務局の今を私情たっぷりでお伝えします。

一昨年にコロナウイルスが確認されてからアルファ、ベータ、デルタなどの変異株が次から次に出てきて、今またオミクロン株が猛威を振るいつつあり、なんとも落ち着かない日々が続いていますね。

このコロナ禍、全司協では会議や研修会を対面ではなくリモート（Zoom）で開催する事が普通になってきました。

数年前にリモート会議開催に向けて、webカメラを購入しテスト配信をしたことがありましたが、その時は「使えれば便利だよな」ぐらいの気持ちでいつの間にかその話もなくなっていました。本格的にリモート会議を開催する事になるとは思いもせずに。

今となっては、あの時もう少し真剣に取り組んでいればよかったと後悔頻りです。

今年もあと一週間となりました。

来年どんな年になるのでしょうか。

ドキドキ、ワクワク、ビクビク？です。

何はともあれ今後とも全司協を宜しく願います。

5. 編集後記

全司協だよりなるものの形を作ってみました。これから少しずつ改良していきたいと思いますが、業務の報告だけでなく、素敵な全国各地の様子も併せてご紹介できればと思います。（石坂美穂）